

Cisco CallManager DLLHOST のトラブルシューティング

目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[問題](#)

[解決策](#)

[テクニカル サポートのサービス リクエストを作成する前に収集する情報](#)

[関連情報](#)

概要

このドキュメントでは、すべての COM+ アプリケーションで使用される DLLHOST 処理に関連する問題と、このホスト処理の問題を解決する方法について説明します。

前提条件

要件

このドキュメントに関する固有の要件はありません。

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、次のソフトウェアとハードウェアのバージョンに基づくものです。

- Media Convergence Server (MCS; メディア コンバージェンス サーバ) 7835 (他の MCS プラットフォームも適用)
- Cisco CallManager 3.x および CallManager 4.x (その他の CallManager の該当するバージョン)

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな (デフォルト) 設定で作業を開始しています。ネットワークが稼働中の場合は、コマンドが及ぼす潜在的な影響を十分に理解しておく必要があります。

表記法

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコ テクニカル ティップスの表記法](#)』を参照してください。

問題

DLLHOST 処理は、Windows 2000 のすべてのバージョンで使用され、すべての COM+ アプリケーションで行われるホスト処理です。Windows システムでは ASP ページの管理と実行のために COM+ を使用しています (Internet Information Server (IIS) / サービス)。したがって、ASP ページが呼び出されると、その ASP ページを実行するために DLLHOST が使用されます。

具体的には、DLLHOST は、すべての COM+ アプリケーションで行われるホスト処理です。分散コンポーネント オブジェクト モデル (DCOM) は、ダイナミック リンク ライブラリ (DLL) ベースの COM オブジェクトのサポート モジュールです。DCOM は、Windows、ほとんどの Microsoft 製品、および COM+ または DCOM を使用する多くの Microsoft 以外の製品の基本的な部分であるソフトウェア アーキテクチャ モデルです。ほとんどの場合、タスク リストに DLLHOST が表示されることはありません。通常、DLLHOST はその機能を開始して実行し、終了します。ただし場合によっては、Java COM オブジェクトが実行されると ([インターネット](#) をブラウズして Java コードを含むページに移動した場合に発生する可能性があります)、DLLHOST が終了せず、タスク リストで確認できる状態になることがあります。

DLLHOST がタスクを完了したかどうか判別する方法がないので、End Task を行わないことが重要です。上級ユーザは、レジストリ キー「HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Java VM\MSDebug」を削除することで、DLLHOST がタスク リストに常に表示される問題を解決することができます。DLLHOST は通常は安定していますが、DLLHOST が管理している DLL によって問題が引き起こされる場合がときどきあります。このドキュメントの「[解決策](#)」セクションは、DLLHOST 処理でのメモリ リークを識別する手順を示します。

詳細については、最新の Windows オペレーティング システム (OS) と Structured Query Language (SQL; 構造化クエリー言語) に関する「[Readme Notes](#)」 ([登録ユーザのみ](#)) を参照してください。

解決策

最初の作業は、DLLHOST 処理でメモリ リークを起こしている COM+ アプリケーションを識別することです。これらのステップは、この問題のトラブルシューティングを始めるための基本になります。

1. Task Manager で、DLLHOST.EXE ファイルに関係する process identifier (PID; プロセス識別子) を調べます。
2. [Start] > [Programs] > [Administrative Tools] > [Component Services] の順に選択します。
3. [Component Services] > [Computers] > [My Computer] > [COM+ Applications] の順に展開します。
4. **COM+ Applications** を選択します。
5. COM+ を右クリックし、[View] > [Status View] を選択します。
6. 右側のペインで、アクティブな COM+ アプリケーションの右側に関連する PID がリストされています。この PID を、Task Manager で PID を識別するときの相互参照として使用します。次の例では、Task Manager の DLLHOST が PID 2456 を参照しており、200 MB 以上のメモリにアクセスしています。Component Services では、PID 2456 が「IIS Out-Of-Process Pooled Applications」に関連付けられています。この場合、Cisco CallManager の状態は Cisco Bug ID [CSCea07798](#) ([登録ユーザのみ](#)) に該当しています。これは「IIS Out-Of-Process Pooled Application」を使用している Multilevel Administration Access (MLA) が起こすメモリ リークに関連するものです。この状況では、MLA アカウントではなく、

CCMAAdministrator アカウントを使用すると問題が解決します。この情報を利用して既知の不具合が問題であるかどうか 見る COM+ アプリケーションのための [マイクロソフト社 Webサイト](#) および [Cisco.com](#) および検索両方に行くことができます。または、perfmon を使用して DLLHOST のプライベート バイト数を確認できます。プライベート バイト数が数日間一定であれば、メモリ リークはありません。プライベート バイト数が増加している場合、特定すべきメモリ リークがあります。

テクニカル サポートのサービス リクエストを作成する前に収集する情報

シスコ テクニカル サポートでこれらの問題に関するサービス リクエストをオープンする前に、次の情報を収集し、テクニカル サポート エンジニアがこれを使用できるようにしてください。

1. エラーに関連していると思われるすべてのイベント ログを収集してください。
2. Windows SQL パッチを収集してください。これを行うには、[Start] > [Programs] > [Microsoft SQL Server] 7.0 <Version> > [Query Analyzer] の順に選択します。
3. **select @@version** と入力し、クエリを実行します (上部の中央にある緑色の矢印)。
4. Windows パッチを収集してください。これを行うには、[Start] > [Run] を選択し、`c:\sti\stiver` を入力します。

関連情報

- [Fax/Modem over IP に関するテクニカル サポート ページ](#)
- [音声に関する技術サポート](#)
- [音声とユニファイド コミュニケーションに関する製品サポート](#)
- [Cisco IP Telephony のトラブルシューティング](#)
- [テクニカルサポート - Cisco Systems](#)